國學院大學久我山高校ラグビー部　創部70周年記念出版

一所懸命

ラグビーは教育だ！

中村 誠

元・國學院大學久我山高校ラグビー部監督（現・昌平高校ラグビー部総監督）

昭和五十年代、高校ラグビー界を席捲し、今なお強豪校として君臨する國學院久我山高校ラグビー部を創り、育てた中村誠監督。
今年の花園で話題となった國學院兄弟対決！（久我山ＶＳ栃木）
土屋、吉岡両監督は直接の教え子、そして唯一の初出場の昌平高校は自ら総監督であり、その御代田監督は吉岡監督の教え子。
中村誠＝久我山イズムでもあり、久我山だけでなくラグビー界の色んな所にもそのＤＮＡは引き継がれている。
その「一所懸命」な考え、生き方を、生い立ちにまでさかのぼり克明に記録。スポーツ指導者の範となるべき必見の書。

本文抜粋

はじめに

昭和三十四（一九五九）年四月。日本体育大学を卒業した私は、國學院大學久我山高校の体育教員となり、四十三年に及ぶ監督生活のスタートを切った。当時のラグビー部は、故郷後のグランドや部員五十人名が、ラグビーボールを蹴って遊んでいるという状態であった。試合となると人数が足りず、体育の時間に運動能力の高い者を見つけては誘い、毛遊部やサッカー部の生徒を引っぱってきては試合に出して、やっとの思いで十五名を揃えるといったことが何年も続いた。

ラグビー部を「つくる」とはどういうことか。まずは部員を集めることだ。しかし、それには各クラス担任の協力が必要だ。担任が応援してくれる部でなくては、部員は集まらない。そのことに気づいた私は、部員に口を酸っぱくして言い続けた。「授業をサボるな」、「服装を正せ」、「掃除当番はしっかりやれ」、「授業中に居眠りをするな」、「トイレを汚すな」、「担任の言うことを守れ」、「宿題は必ずやれ」、「予習をしろ」、「復習をしろ」……。ラグビー部員としての活動の以前に、クラスの中の一生徒として、やるべきことをきちんとやれ、ということである。数年経つと、各担任がクラスの雰囲気に、ラグビー部に入って鍛えてもらえ、と言ってくれるほどに変化していた。「ラグビー部員である前に、よき久我山高校生であれ」という、私の指導方針を認めてくれたのであろう。次第に部員が増加していった。集まった彼らの熱意と年を膨らんでいった。

中村 誠 なかむら まこと

1936年、東京都武蔵野市吉祥寺生まれ。55年、國學院大学久我山高等学校卒業。59年、日本体育大学卒業。國學院大学久我山中学・高等学校に奉職、ラグビー部監督に就任。63年、「柔道整復師」免許試験に合格。69年度、全国高校ラグビー大会に初出場。75年度、全国大会で初優勝。以後監督として四回、部長として一回優勝。2002年國學院大学ラグビー部監督に就任。2010年より昌平中学・高等学校ラグビー部総監督。
（写真撮影：昌平高校御代田監督）

一所懸命　ラグビーは教育だ！
著者：中村 誠
発売予定：2018年4月中旬、 予価：2,000円＋税、 頁数：270（予定）、 判型：四六判、 発行者：國學院大学久我山高校ラグビー部OB会、 出版社：鉄筆
【目次】はじめに／1 一所懸命／2 ラグビーこそ教育／3 ラグビーへの情熱／4 未来へ託す思い／おわりに／巻末資料（歴代記録、OB名簿）／編集後記

４月中旬発売　10冊以上お買い上げの方ご予約を承ります。

本紙にご希望冊数とお名前、ご連絡先などをご記入の上、下記メールアドレスまでご一報ください。本のお届け方法、代金のお支払い方法などについて、後日ご案内させていただきます。（メールのみ対応となります）
注文・問い合わせ先 ：國學院久我山久我山ラグビー部ＯＢ会　kugayamarugbyobclub@yahoo.co.jp
※一般販売はamazon.co.jpにて予定です。販売日時が決まりましたら、ＨＰ（http://kugayamarugby.jp/）
フェイスブック（https://www.facebook.com/kugayamarugby/）にて案内をさせて頂きます。

國學院大學久我山高等学校ラグビー部OB会